

## 宇部市文化振興まちづくり審議会 概要

日 時：令和 7 年(2025 年)7 月 24 日（木）10:00～12:20

場 所：市役所 5 階 第 2 委員会室

出席者：委員 9 人（欠席 1 人）

事務局：観光スポーツ文化部：青山部長、森本次長

文化振興課：中祖課長、越智副課長、中谷文化振興係長、伊藤

学びの森くすのき・地域文化交流課：石川副課長

### 1 開会

### 2 議事

（１）「文化振興ビジョン（第三次）」2024 年度取組実績について

（２）「文化振興ビジョン（第三次）」2025 年度取組計画について

文化振興ビジョン（第三次）の進捗状況の 2024 年度取組実績及び 2025 年度取組計画について、事務局より説明。

会長：子ども文化夢教室は昨年度 12 校、今年度 12 校実施とあるが、市内の小中学校数と何年で学校を一巡するのか

事務局：市内の公立小中学校は 24 校ある。年度で 12 校ずつ実施し、隔年で全ての学校が体験できるようにしている。

委員：取組みの中で、ダンスや声楽など多岐にわたる講師はどのように依頼しているのか。

事務局：市のアートパフォーマーバンクに登録している講師に依頼する場合や宇部市文化創造財団が個別に選ぶこともある。また、宇部文化連盟所属の方に依頼することもある。

委員：あしながおじさんプロジェクトの子ども課外クラブと、ふれあいセンターが夏休み期間中にしている催しはリンクしているのか。

事務局：ふれあいセンターの催しとリンクはしていない。あしながおじさんプロジェクトは企業団体個人の方からの寄付を原資としている。

委員：寄付で賄っていることがすごいと思った。どの位あるのか。

委員：寄付への協力依頼をイベントガイド等に掲載しており、個人の方も多く 1 口 1 万円いただいている。1 人で 10 万円していただく方もいて、それを原資に講師を選んでいる。

委員：今年度から山口県教育委員会が山口 PRIDE を銘打って、それぞれの地域の山口プライドを子ども達に醸成するようにしている。

宇部市のシビックプライドの緑と花と彫刻のまちを受け、見初小学校では彫刻教育

を柱の一つとして推進している。

学校の取り組みで彫刻作家さんに授業をしてもらい6年生の卒業制作をしている。

学校としての計画はあるが、市が間に入ってくると助かる。

事務局：UBEビエンナーレ彫刻の丘周辺での野外彫刻鑑賞については、市内すべての小学4年生を対象に今年度も行う予定である。

学校に出向いての彫刻事業は、市からすべての小学校に投げかけをし、手を挙げたところは全て実施する予定で考えている。

作家さんによる事業を希望される場合は、担当の先生と作家さんと市で協議をして実施する予定である。

委員：市が所蔵している彫刻作品はどれくらいなのか、設置費用は市が負担するのか。

事務局：野外彫刻が210数点ほどある。模型は多くあり収蔵庫に保管しているが、彫刻教育や展示で活用している。

設置費用は市の財源で賄っている。

委員：見初小学校が素晴らしい連携ができていると感じた。野外彫刻が1校につき1つあると良いと感じた。

#### 今後の渡辺翁記念会館の活用について

事務局：今後の渡辺翁記念会館について考えを聞ききたい。

委員：渡辺翁は国の重要文化財になっておりとても貴重で、守っていかないといけないが、文化の象徴の場所として利用している難しさを思った。

文化財全般に言えることだが、保存もして活用するところ、建物となるとかなり大変だろう。

委員：渡辺翁は文化芸術のメッカだった。

今は使用できないため他市町のホールを利用しているので、渡辺翁が残ると一番うれしいが、それに代わる文化芸術のメッカとなるような場があってほしい。

委員：渡辺翁は、何年前に色々な雑誌に取り上げられるなど、本当に有名な建物だと認識している。日本の誇りとしてしっかりと予算をかけたら良いのではと思う。

トイレがきれいな施設は女性が行きやすい。トイレが良くなったと評判になれば来客が増えるのではという話も出たりする。

駐車場の問題がある。車をどこに停めるかが悩みの種で高齢の方は遠いところは難しいと思う。駐車場がずっと色々なところに入れるようになったら良いのではないか。

朝倉文夫の彫刻が陰の方にあって見えづらいので、もっと表に出たら良いのではないか。

委員：施設のスペースは決まっているので、うまく利用して屋内外でみんなが来れるイベントを設けたいと考えるが、天候の問題がある。

他所では建屋と別に屋外の施設にも屋根がついており、そうすると屋外でも雨天を気にせずイベントを計画でき数を多く考えられるのではないかな。

整備する際は、活動しやすくなる視野で検討してほしい。

委員：指定管理者として実際にアーティストの方やお客様に来てもらっているため、重要文化財の保存と活用を同時にすることが重要なところと考える。

耐震化や空調設備もお客様の健康のために重要で優先と思うが、カビが生えてカビ臭い点が気になっている。

気持ちよく公演を見れること、お客様が見られて帰られるまでが一連の公演の体験だと思う。

委員：重要文化財に指定されたことは良いことと思うが、その分制約があり使い勝手が悪く感じる。例えば湖水ホールの隣に新しいホールを立て、渡辺翁記念会館は重要文化財として利用できる部分を利用する使い方をした方が、長い目で考えると修繕をしていくより良いのではないかな。

また、渡辺翁記念公園の管轄が場所によって違う点が使いにくい。それぞれ許可を取らないといけないため、管轄を1つにまとめてほしい。

委員：文化活動をしている身からしたら絶対に残して欲しい。これからも活用できるようにして欲しい。

また、別のところにホールを建てる話も、大きいホールやもう少し小さいホールも欲しいと思っている。

一番の問題は費用ではないかなと思う。どうすればよいか、クラウドファンディングをするのか、色々思っているところ。

会長：渡辺翁記念会館は象徴的な場所なのでそのまま残したいし、費用を考えると新ホールを作る方が現実的な選択肢である、という両意見があるが、建築された時点でのファシリティが時代に合っていない、というのが事実だ。

他の建物の例から、建築の一部分を残し展示したり、アップデートをすることもあるし、移設して駐車場を確保して、一部分を残すということもあるのではないかな。

市役所をホテルに改装して成功した例が紹介されていた。建築家も色々なタイプの人がいてリノベーション、リユースに特化したような建築チームもあるようなので、少し広くそういった専門家をあたっていくのも手ではないかな。

市民の文化活動が継続できるような計画を優先することが一番大事ではないかな。

### （３）意見交換

委員：彫刻の模型を所蔵してしまっておくよりも、買いたい人もいるのではないかな。また、作家さんも喜ぶのではないかな。

事務局：相談があれば市が購入希望者と作家さんをつなぐことはできる。

委員：宇部市が模型を買い取ったものの著作権はどうなるのかな。

事務局：作品をモチーフにして二次的に何かを作る場合は必ず作家さんの承諾をもらっており、作家さんがご存命でない場合は著作権継承者の方に確認をとっている。

委員：彫刻のグッズが増えたら良いと思う。模型よりも小さい置物サイズなどあれば良いと思う。

会長：山口県立美術館が県美展をするときにミュージアムショップで作家さんのグッズを販売することがあるが、作家さんも助かるようだ。

また、コレクションを元にした物を作れる業者もあるようだ。

#### 第四次ビジョンの策定に向けての目標指標について

事務局：第三次文化振興ビジョンが来年度で最終年度になる。第4次ビジョンの策定に向けて、指標目標の設定については、数字だけで表すことができるのかという点で前回の審議会で意見をいただいている。

目標指標のあり方や設定の仕方について意見を聞きたい。

委員：第1次ビジョンから第3次ビジョンで目標指標から外れたものはどういうものか。

事務局：施策体系を整理していく中で目標指標から外れたものもある。

また、達成したと判断したがやはり必要だとして復活したものもある。

委員：目標の定量化は良いことだと思うが、実績値を人口が減っていく中でどう測っていくかが難しいところ。定量目標の部分を少し細かくしていく必要があると感じる。

委員：数だけで文化の目標が測れるのかというところがあり、量の評価とともに量で測れないところも表すことが重要だと思う。

委員：第1次から3次ビジョンは、数値の目標を立てて達成率をわかりやすく作っていると思う。

今までは文化とどれだけ触れ合えたかという指標目標にしていたなら、第四次では体験活動にするのはどうか。活動することによってこれだけ参加者が増え、それによって文化の知識が増えてきたかということも必要になるのではないか。文化活動が数値で表せられるのかという点はあるが、代わる数値を参加者で表現することも可能かと思う。

第3次までの考え方と違っていかに体験させていくかも1つのやり方と思う。

委員：若者を見ていると、色々なところに行きたがらない子が多い。今はほとんどスマホの中で済んでしまう。だが、色々な美術館を紹介すると言ってみたいと感想がでる。こちらから、行ったら楽しい、すごく巨大なアートが見れるなどアナウンスしていくと、行ってみたいという希望がでる。

また、宇部市のアート教育を大切にしているのを見て、やはり長い時間がかかると思う。時間をかけてアートの楽しさや実際に行くことを伝えることも大切だと思う。

委員：第二次ビジョンの指標に色々な小学校数があったが、第三次ビジョンではなくなっていることに賛成する。学校がどれだけ来たかではないのでは。

それぞれの地域にそれぞれの教育がある。小学校中学校はそれぞれの地域のプライドを醸成する、地域の人の思いや願いをしっかりと学び、未来を語れる子にしたいと思っている。

文化は生活に直結はしない、生きるのに絶対必要とは言えない。数値で表しにくい、数値が上がっていくのは文化的な豊かな市になっているかと思う。

また、好きな催しがあれば行くが宇部市は誘致が難しい面があるので、小学校はしっかり子どもたちに種をまく場として色々なものに出会わせようと思った。

委員：美術側にいる人間として、数字で言われることは悲しいところがあるが、達成したかを見るにはある程度必要。

コロナを経て時代が変わって、人口減少もあるかもしれないが美術博物館のお客さんは戻ってきていない。今は物価高もあって使える経費が減ってきているところもある。

そういう点が数字だと出てくるのでは。現状把握として大切なものと思う。

全国的にそうだと思うが、美術館自体もみんながすぐ見てわかるものにシフトしたとを感じる。芸術鑑賞は疲れるし頭も使うからこそ知る喜びを体感できるが、ただ面白いかわいいという入口で止まっている。

本当はそこに入って知る喜びを味わってこそ文化度が上がっていくが、そこまで行っていない。

指標目標としてどう達成できたかと言えるかは難しいが、現場からの感覚だとそういった点が後退しているところに危機感がある。

また、高齢化で活動自体がままならないこともある。作品を作るだけでなく、見てもらってそこでまた新たな何かが始まることで続くと思う。

開催数や来場者数といった数字はあるが、それで展示が難しくなっている現状を把握できているのかというところがあるので、ビジョンの達成度をどこで見るのかはすごく難しいなと感じる。

会長：文化によってどのようなまちを作っていくかが主題だと思う。

1つは文化の再定義、包括的な今のZ世代も含めた形の文化を考える必要があると思う。

また、定性的定量的評価については、国内でも先進的な事例があるのではないかな。国外ではオーストラリアが少し制度化しているようだ。

第四次ビジョンの策定に向けて今日は課題を共有したということで、次回また色々な意見をもらいたい。